

二世豊竹古靱大夫床年譜 (十六)

不許複製

年

次

劇場並に狂言

古靱大夫に關する記事

淨瑠璃界一般

大正十三年

八月廿四日初日
(五日間)

博多 大博劇場

八月三十日初日
(三日間)

長崎 南座

九月三日初日
(三日間)

久留米 惠比壽座

九月七日初日
(三日間)

熊本 東雲座

九月十一日初日
(二日間)

有田 有田劇場

九月十三日初日
(二日間)

小倉 勝山劇場

九月二十日初日
(廿三日間)

前 加賀見山舊錦繪 大序より七ツ目迄
文樂座

中 名筆吃又平 土佐將監閑之段

切 明烏六花曙 山名屋之段

同座

前 源平布引灘 大序より四段目迄

中 中心天綱島 紙屋内之段

切 廿三間堂棟由來 平太郎住家之段

一座

津大夫、吉彌、古靱大夫、清六、鑑大夫、團六、靜大夫、芳之助、辰大夫、團伊三、鮎路大夫、團二郎、濱子大夫、吉貞、津矢大夫、佐々木、林

九月六日、古靱大夫の長男、金杉太郎歿す、法名、奥藏院法金信士、行年二十二。

役場(初役)長局之段切 三味線 四世鶴澤清六

役場(初役)百姓九郎助内之段 切 三味線 四世鶴澤清六

友松事鶴澤道八を津大夫の合三味線として文樂座へ入座せしめんとして吉野主任、巡業先熊本に來り、更に有田に來り關係方面に諒解を求めんとせしも、本問題に就きては反對論者ありその成行を注目せらる。

竹本伊達大夫、六世土佐大夫と改名、文樂座に直る、披露狂言「吃又」友松入座問題紛糾して津大夫休座す。

友松事鶴澤道八、津大夫合三味線として入座す、その役場布引瀧四之切。

年次	劇場並に狂言	古靱大夫に關する記事	淨瑠璃界一般
十一月廿一日初日 (十二日間)	文樂座 前戀女房染分手綱 大序より 子別れ迄 中平假名盛衰記 逆櫓之段 切廓文 章 吉田屋之段	役場(初役) 沓掛村之段切 三味線 四世鶴澤清六	是にて冬休み。
十二月五日初日 (十日間)	東京演技座	一座 津大夫、道八、古靱大夫、清六、鋳大夫、團六、靜大夫、清吉彌、島大夫、淺造、つばめ大夫、友工門、辰大夫、團伊三、濱子大夫、團二郎、津久大夫、吉貞、陸路大夫、金彌吉野主任、林手代	本興行後幾ばくもなくして演技座饒失す。
十二月十七日初日 (五日間) (日延一日)	廣島新天座	一座 古靱大夫、清六、鋳大夫、團六、靜大夫、芳之助、つばめ大夫、猿太郎、越登大夫、清二郎、辰大夫、團伊三、陸路大夫、團二郎、春若大夫、清三郎(人形部)文五郎、辰五郎、政總外、木村	
十二月廿四日	京都六角會館	出演 古靱大夫、清六、源大夫、團六、靜大夫、吉彌	
十二月廿六日	奈良新溫泉	出演 古靱大夫、清六、町大夫、歌助、鏡大夫、吉五郎、越登大夫、清二郎、辰大夫、團伊三	

大正十四年（二六歳）

一月二日 初日
（廿四日間）

文 樂 座

前 本朝廿四孝

大序より
狐火迄

中 近頃河原達引

四條河原より
堀川猿廻し之段

切 御所櫻堀川夜討

辨慶上使
之段

二月四日 初日
（廿一日間）

同 座

前 菅原傳授手習鑑

大序より
四段目迄

中 嬢景清八島日記

花菱屋より
日向島之段迄

次 艶容女舞衣

酒屋之段
道春館之段

切 玉藻前旭袂

道春館之段

三月五日 初日
（廿日間）

同 座

前 義經千本櫻

大序より
道行迄

審 連理の松

生玉之段より
湊町之段迄

四月一日 初日
（廿二日間）

同 座

前 日吉丸稚櫻

大序より
三段目迄

中 長辨杉由來

志賀の里より
二月堂之段迄

切 桂川連理柵

六角堂より
道行之段迄

役場（初役） 山本勘助物語之段
切

三味線 四世鶴澤清六

古靱大夫風邪の爲め二日間送り
より半段は八十大夫にて代役。

役場（初役） 松王首實驗之段切

三味線 四世鶴澤清六

役場（三度目） 渡海屋之段切

三味線 四世鶴澤清六

古靱大夫總檣古夜より病氣にて
初日から四日目迄休演、代役靜
大夫。

役場（二度目） 二月堂之段切

三味線 四世鶴澤清六

角大夫、久々にて出座。合三味
線發糸。

一月十日、つばめ大夫、八日市
飛行隊へ入隊す。

本興行中頭取桐竹琴糸樂屋にて
歿す。

次興行迄の休み中、文樂座次席
主任中村仙助歿す、人形芝居の
爲め同人の早世は洵に惜しまる

年次

劇場並に狂言

古靱大夫に關する記事

淨瑠璃界一般

五月一日初日
(二十日間)

文樂座

前彦山權現警助劔 大序より九段目迄

中國性爺合戰 樓門より獅子城之段迄

切戀娘昔八丈 才三勘當より鈴ヶ森之段迄

六月一日初日
(二十日間)

同座

前太平記忠臣講釋 大序より七ツ目迄

中岸姫松轉鑑 飯原屋敷之段

大壺坂靈驗記 土佐町より澤市内之段迄

次増補大江山 辰リ橋之段

七月八日初日
(六日間)

神戸松竹劇場

七月十八日初日
(六日間)

名古屋御園座

七月廿六日初日
(十一日間)

東京歌舞伎座

役場(初役)毛谷村之段切
三味線 四世鶴澤清六

役場(三度目)澤市内之段切
三味線 四世鶴澤清六

ツレ(一日替)鶴澤猿太郎

一座 津大夫、道八、土佐大夫、清六、靜
吉三郎、古靱大夫、團六、
越名大夫、勝生、濱子、播
團二、勝造、辰夫、吉貞、伊
路、相生、大友、門、伊
三、(人形部)玉藏、榮三、辰五
郎、文五郎、玉松、義助、外
玉七、松、助、政、龜

本興行より源大夫の合三味線豊
澤仙承となる。
初世鶴澤清七の百年忌に相當せ
し故、六月廿三日、大阪天王寺
西門、布衣堂裏元祖建立す、初
墓地に同師の石碑を建立し、初
世清七は通稱を松尾清七と稱し
三絃の朱譜を創案せし人、後に
六月廿五日、大阪小橋寶樹寺に
て三世鶴澤友次郎名跡を相續せり
代大隅大夫營む。
七月五日より六日間、上會第四
回開催。「本朝廿四」土佐町より御
山「辰リ橋」